

地域母子保健福祉情報紙 No.280

公益社団法人 母子保健推進会議

# 親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的 (抜粋)  
国及び地方自治体  
関係諸団体と連携協力して  
母子保健の重要性を啓発し  
母性の健康を守り たかめ  
心身ともに健全な児童の  
出生と育成に寄与してまいります

## 妊娠期からの関わり、ボランティア的な活動の現状

日本財団助成  
調査結果から



委員会で調査結果を検討 左から高橋睦子委員、今村晴彦委員、佐藤拓代委員長、福島富士子委員

本会議では、令和 4 年度事業の一環として、日本財団の助成により全国の市区町村母子保健担当課に、母子保健に係るボランティアな活動をされる方々の設置・活動状況と、母子保健の最近の現状・考えていること等について、調査票による調査を行った。その結果(データ)については本紙前号で報告したところだが、今号では、自由記載部分を中心に紹介する。回答(記入)者は、保健師が92.1%。

### 妊娠期からの関係性の構築重要

各自治体で日ごろ妊産婦や子育て中の方々と接する中で、妊娠期からの支援、関わり

の重要性を感じられることはあるかについて、自由に回答していただいた。

・妊娠期から顔の見える関係を丁寧に構築することで、その後の支援も介入のハードルが大きく下がります。また、妊娠期から支援者が寄り添って

ることを周知することで、予防的介入になると実感しています。

・妊娠期から保健師、栄養士が支援することで、信頼関係を築くことができる。相談相手(先)を明確にすることで相談につながりやすくなっていると感じる。

・妊娠期から、何か気になるな、心配だなと思う方や、母子手帳交付時のアンケートで気になる項目にチェックがついている方は、出産後の子育てでも支援が必要になることが多いと感じています。そのため、妊娠期から相談できる関係性を築いておくことが重要と思っています。

・子育て期に具体的に支援を必要とする方が多いので、妊娠期から地区担当が継続して関わる必要と感じます。

・出生数は減っていますが、妊娠期から支援を必要とする家庭は減っていません。児童虐待対策において、母子手帳交付をきっかけに、保健師が妊娠・出産・子育てに関する支援者として信頼関係を築くことは、家庭訪問で生活状況を把握し、健康問題や養育について介入することで、虐待予防の重要な役割を担っていると感じます。

・食事や生活リズムなど、妊娠期からの意識づけが産後につながると感じる。赤ちゃんが生まれてからは、常に自分のことを意識してもらうのは難しい。

・保健指導、食育、虐待予防、すべての入口は母子手帳交付時の面接となる。丁寧な面接により信頼関係を築き、健康および子育ての支援をしている。

・精神的に不安定なママや外国人のママなどは特に、妊娠期からの支援体制づくりが重要だと思います。

・妊娠期から関わっている、出産後も「いつも関わっている人」「知っている人」という安心感につながっているようだ。

・妊娠から出産・子育てに関するあらゆる相談にワンストップで対応することで、早期

アンケート

妊娠期からの関わり、ボランティア的な活動の現状 日本財団助成調査結果から... 1～5

紙上セミナー：8020の里づくり

「良い歯みがき、悪い歯みがき」～歯ブラシは楽しいのか嫌なことか～... 6～7

「8020の里賞」応募受付中です！／

「妊娠中から知っておきたい赤ちゃんとママのこと」申し込み受付中！／編集帖 ... 8